

令和7年度 土木学会中国支部賞 受賞理由書

＜中国地方の地域課題の解決に向け取り組んだ業務，あるいは技術の普及に貢献した業務＞

受賞業績名：境港を基地とした「命のみなとネットワーク」

受賞者：国土交通省 中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所

写真：



←港湾業務艇「はくしゅう」



↓宇龍漁港における支援物資の積み出し状況

選定理由：

国土交通省港湾局では、災害発生時に“みなと”の機能を最大限に活用し、各地域で物流・人流のための「命のみなとネットワーク（以下、命のみなとNW）」の形成に取り組んでいる。

中国地方整備局においても、国、各県や市町村とともに、地域毎の現地特性を踏まえた訓練を毎年協働で計画・実施しているところであり、島根県出雲市の宇龍漁港においても2024年9月に予定されている出雲市防災訓練と連動した「命のみなとNW訓練」に向けて、同年6月29日出雲市をはじめとした地元関係者と連携し、停泊可能箇所の調整等を進めていたところ。

2024年7月10日、島根県東部豪雨の影響により、出雲市側から島根半島へ接続する唯一の道路である県道日御碕線が崩落し、宇龍地区の住民や観光客が孤立状態となったことから、出雲市から宇龍漁港へ港湾業務艇「はくしゅう」の派遣の要請があったところであるが、要請に応じるため同日10時に境港を出港し、観光客の輸送支援、緊急物資輸送支援等を実施した。

事前の机上検討や訓練が行われていなければ、港湾業務艇の係留場所、緊急物資の荷下ろし先等を確認せねばならず、要請後直ちに迅速な対応を執ることは不可能であったといえる。

国土交通省と関係市町村等が合同で、現地特性を踏まえた物資又は人員輸送に係る実動訓練を行ったことにより、災害発生時においても“みなと”の機能を最大限活用した海上輸送による救助・救援や物資輸送等の災害対応支援が実施可能となった。

＜中国地方の地域課題の解決に向け取り組んだ業務，あるいは技術の普及に貢献した業務＞

受賞業績名：主要地方道 鞆松永線道路改良事業（鞆未来トンネル）

受賞者：広島県 土木建築局

写真：



↑ 鞆松永線道路改良事業 鞆未来トンネル



ウォーキングイベント→

選定理由：

「鞆の浦」は、古代より潮待ちの港として栄え、瀬戸内海の交通の要衝として重要な役割を果たしてきた港町であり、江戸期の港湾施設に必要とされた「常夜燈」、「雁木」、「波止」、「船番所」、「焚場」という5つの施設が国内で唯一残っている港である。他にも数多くの寺院や伝統的な町並みが現存しており、多くの観光客が訪れる観光地である。一方で、鞆地区の中心部は古くからの家屋が多く残り、道幅が狭く、車の離合が困難なことから、通勤時間帯や観光シーズンに交通混雑が生じ、地域住民の生活や安全に影響が生じていた。

鞆地区道路港湾整備事業については、昭和 58 年 12 月の埋立架橋計画策定後、平成 19 年 5 月に埋立願書を出願した。その後、差し止め訴訟が提訴されるなど、問題解決が進まない状況にあった。

埋立架橋計画に賛成する立場と反対する立場がぶつかり合い、地域が分断され、将来に禍根が残るといったことは避けなければならなかった。このため、それぞれの立場の違いを越えて、鞆地区が抱える課題に立ち返り、住民が日常生活で直面している様々な問題、ニーズ、解決策などを直接話し合い、解決を図る場として「鞆地区地域振興住民協議会」を設置した。また、住民協議会では、対話が促進されるよう、鞆地区の問題に利害関係を有しない第三者で中立的な立場のメディエーター（仲介者）を設け、平成 22～24 年の約 2 年にわたり 19 回の協議を行った。

平成 24 年 6 月に「生活利便性や安全確保」と「景観保全」とを両立させながら住民ニーズを最もバランスよく満たすことができるものとして、「埋立架橋計画」から「山側トンネルを含むバイパスや交通・交流拠点の整備などの総合対策」へ方針転換し、交通課題の解消に資する「鞆未来トンネル」が令和 7 年 3 月に開通した。

<土木技術による中国地方の発展に寄与する著しい業績>

受賞業績名：山陰道（出雲 IC～石見福光 IC 間）

受賞者：国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所

写真：



↑ 山陰道（出雲 IC～石見福光 IC）

開通記念イベント→

選定理由：

山陰道は鳥取・島根・山口各県の主要都市を東西に結ぶ全長約 380 km の高規格幹線道路である。このうち、令和 7 年 3 月に出雲・湖陵道路 4.4km、湖陵・多伎道路 4.5km が開通し、松江国道事務所管内の山陰道（出雲 IC～石見福光 IC）約 49 km が連続して繋がった。



開通以前、島根県の東西移動は線形不良区間を含む国道 9 号に依存しており、事故・災害時の交通障害や移動制約が、救急医療・産業活動・観光・日常生活など移動を伴う活動全般に課題をもたらしていた。今回の開通により松江市～浜田市間の所要時間が約 20 分短縮され、沿線への企業進出・雇用創出、新工業団地整備、観光周遊の促進など地域経済の活性化に大きく貢献している。また、高次医療機関への救急搬送時間の短縮や、国道 9 号の代替機能の発揮など、地域の安心安全を担う役割も果たしている。

このような道路ストック効果を発揮させるためには、山陰道の利用促進が重要であるとの認識のもと、開通前に地域住民等を対象としたイベントを実施し、約 2,500 人が来場した。さらに、松江国道事務所の HP、新聞広報、SNS など多様な媒体を活用した広報により、幅広い世代への効果的な情報発信を実現した。

また、工事を行うにあたり i-Construction を積極的に活用することで担い手不足の課題を補いながら計画通りに工事を完成し、地域建設産業の技術力強化にも貢献した。

山陰道（出雲 IC～石見福光 IC）の整備は、様々な分野における整備効果の発現、最新技術の活用による産業育成・競争力強化等、今後の島根県及び中国地方の発展に大きく寄与するものである。